

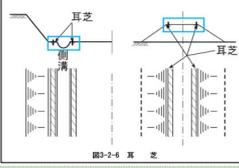
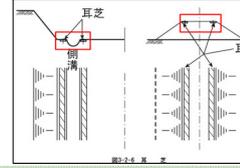
土木工事共通仕様書 新旧対照表

| (改定前) | | (改定後) | | 改定理由 |
|--------------------|---|--|--|------|
| 編章節条 (項目見出し) | 現行条文 | 編章節条 (項目見出し) | 新条文 | |
| 1-2-3-4 | 盛土補強工 | 1-2-3-4 | 盛土補強工 | |
| 2. 盛土材の確認 | 盛土材については設計図書によるものとする。受注者は、盛土材のまきだしに先立ち、予定している盛土材の確認を行い、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。 | 2. 盛土材の確認 | 盛土材については設計図書によるものとする。受注者は、盛土材の巻出しに先立ち、予定している盛土材の確認を行い、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。 | 誤字修正 |
| 8. 盛土材のまき出し及び締固め | 受注者は、盛土材のまき出し及び締固めについては、第1編1-2-3-3盛土工の規定により一層ごとに適切に施工しなければならない。まき出し及び締固めは、壁面工側から順次奥へ行なうとともに、重機械の急停止や急旋回等を選び、補強材にずれや損傷を与えないように注意しなければならない。 | 8. 盛土材の巻出し及び締固め | 受注者は、盛土材の巻出し及び締固めについては、第1編1-2-3-3盛土工の規定により一層ごとに適切に施工しなければならない。巻出し及び締固めは、壁面工側から順次奥へ行なうとともに、重機械の急停止や急旋回等を選び、補強材にずれや損傷を与えないように注意しなければならない。 | 誤字修正 |
| 1-2-3-7 | 残土処理工 | 1-2-3-7 | 残土処理工 | |
| 2. 残土運搬時の注意 | 残土を受入れ地へ運搬する場合には、沿道住民に迷惑がからないようにつとめなければならない。 | 2. 残土運搬時の注意 | 残土を受入れ地へ運搬する場合には、沿道住民及び道路利用者に迷惑がからないように努めなければならない。 | 誤字修正 |
| 1-2-4-2 | 掘削工 | 1-2-4-2 | 掘削工 | |
| 6. 硬岩掘削時の注意 | 受注者は、硬岩掘削における法の仕り面近くでは過度な発破をさけるものとし、浮石等が残らないようにしなければならない。 | 6. 硬岩掘削時の注意 | 受注者は、硬岩掘削における法の仕り面近くでは過度な発破をさけるものとし、浮石等が残らないようにしなければならない。 | 誤字修正 |
| 1-2-4-3 | 路床盛土工 | 1-2-4-3 | 路床盛土工 | |
| 14. 採取土及び購入土運搬時の注意 | 受注者は採取土盛土及び購入土盛土の施工にあたって、採取土及び購入土を運搬する場合には沿道住民に迷惑がからないように努めなければならない。流用土盛土及び発生土盛土の施工にあたって、一般道路を運搬に利用する場合も同様とするものとする。 | 14. 採取土及び購入土運搬時の注意 | 受注者は採取土盛土及び購入土盛土の施工にあたって、採取土及び購入土を運搬する場合には沿道住民及び道路利用者に迷惑がからないように努めなければならない。流用土盛土及び発生土盛土の施工にあたって、一般道路を運搬に利用する場合も同様とするものとする。 | 誤字修正 |
| 1-2-4-4 | 路床盛土工 | 1-2-4-4 | 路床盛土工 | |
| 11. 接続部の緩和区間 | 受注者は、特に指示する場合を除き、片切り、片盛りの接続部には1:4程度の勾配をもって緩和区間を設けなければならない。また、掘削(切土)部、盛土部の縦断方向の接続部にはすり付け区間を設けて路床支持力の不連続をさげなければならない。 | 11. 接続部の緩和区間 | 受注者は、特に指示する場合を除き、片切り、片盛りの接続部には1:4程度の勾配をもって緩和区間を設けなければならない。また、掘削(切土)部、盛土部の縦断方向の接続部にはすり付け区間を設けて路床支持力の不連続をさげなければならない。 | 誤字修正 |
| 16. 採取土及び購入土運搬時の注意 | 受注者は、採取土盛土及び購入土盛土の施工にあたって、採取土及び購入土を運搬する場合には沿道住民に迷惑がからないようにつとめなければならない。流用土盛土及び発生土盛土の施工にあたって、一般道路を運搬に利用する場合も同様とするものとする。 | 16. 採取土及び購入土運搬時の注意 | 受注者は、採取土盛土及び購入土盛土の施工にあたって、採取土及び購入土を運搬する場合には沿道住民及び道路利用者に迷惑がからないように努めなければならない。流用土盛土及び発生土盛土の施工にあたって、一般道路を運搬に利用する場合も同様とするものとする。 | 誤字修正 |
| 第3章 | 無筋・鉄筋コンクリート | 第3章 | 無筋・鉄筋コンクリート | |
| 第1節 | 適用 | 第1節 | 適用 | |
| 3. 適用規定 (2) | 受注者は、コンクリートの施工にあたり、設計図書に定めのない事項については、「コンクリート標準示方書(施工編)」(土木学会、平成30年3月)のコンクリートの品質の規定による。これ以外による場合は、施工前に、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。 | 3. 適用規定 (2) | 受注者は、コンクリートの施工にあたり、設計図書に定めのない事項については、「コンクリート標準示方書(施工編)」[2017年制定] (土木学会、2018年3月)のコンクリートの品質の規定による。これ以外による場合は、施工前に、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。 | 誤字修正 |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 土木学会 コンクリート標準示方書(施工編) (平成30年3月) | | 土木学会 コンクリート標準示方書(施工編) [2017年制定] (2018年3月) | 誤字修正 |
| | 土木学会 コンクリート標準示方書(設計編) (平成30年3月) | | 土木学会 コンクリート標準示方書(設計編) [2022年制定] (2023年3月) | 誤字修正 |
| | 土木学会 コンクリートのポンプ施工指針 (平成24年6月) | | 土木学会 コンクリートのポンプ施工指針 [2012年版] (平成24年6月) | 誤字修正 |
| | 土木学会 鉄筋定着・継手指針 (令和2年3月) | | 土木学会 鉄筋定着・継手指針 [2020年制定] (令和2年3月) | 誤字修正 |
| | 公益社団法人日本鉄筋継手協会 鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧継手工事 (平成29年9月) | | 日本鉄筋継手協会 鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧継手工事 (平成29年9月) | 修正 |
| 第3節 | レディーミクストコンクリート | 第3節 | レディーミクストコンクリート | |
| 1-3-3-2 | 工場の選定 | 1-3-3-2 | 工場の選定 | |
| (1) | JISマーク表示認証製品を製造している工場(産業標準化法の一部を改正する法律(平成30年5月30日公布法律第33号)に基づき国に登録された民間の第三者機関(登録認証機関)により製品にJISマーク表示する認証を受けた製品を製造している工場)で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者(コンクリート主任技士等)が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場(全国生コンクリート品質管理協議会の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等)から選定しなければならない。 | (1) | JISマーク表示認証製品を製造している工場(産業標準化法(令和4年6月改正 法律第68号)に基づき国に登録された民間の第三者機関(登録認証機関)により製品にJISマーク表示する認証を受けた製品を製造している工場)で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者(コンクリート主任技士等)が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場(全国生コンクリート品質管理協議会の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等)から選定しなければならない。 | 修正 |
| (2) | JISマーク表示認証製品を製造している工場(産業標準化法の一部を改正する法律(平成30年5月30日公布法律第33号)に基づき国に登録された民間の第三者機関(登録認証機関)により製品にJISマーク表示する認証を受けた製品を製造している工場)が工事現場近くに見あたらない場合は、使用する工場について、設計図書に指定したコンクリートの品質が得られることを確かめたうえで、その資料により監督職員の承諾を得なければならない。 | (2) | JISマーク表示認証製品を製造している工場(産業標準化法(平成30年5月改正 法律第33号)に基づき国に登録された民間の第三者機関(登録認証機関)により製品にJISマーク表示する認証を受けた製品を製造している工場)が工事現場近くに見あたらない場合は、使用する工場について、設計図書に指定したコンクリートの品質が得られることを確かめたうえで、その資料により監督職員の承諾を得なければならない。 | 修正 |
| 第4節 | 現場練りコンクリート | 第4節 | 現場練りコンクリート | |
| 1-3-4-1 | 工場の選定 | 1-3-4-1 | 工場の選定 | |
| 3. 練混ぜ (2) | 受注者は、ミキサの練混ぜ試験を、JIS A 8603-2(コンクリートミキサー第一部：練混ぜ性能試験方法)及び土木学会規準「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法」により行わなければならない。 | 3. 練混ぜ (2) | 受注者は、ミキサの練混ぜ試験を、JIS A 8603-2(コンクリートミキサー第一部：練混ぜ性能試験方法)及びJISCE-I 502-2013「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法」により行わなければならない。 | 修正 |
| 1-3-5-4 | 打設 | 1-3-5-4 | 打設 | |
| 5. コンクリートポンプ使用時の注意 | 受注者はコンクリートポンプを用いる場合は、「コンクリートのポンプ施工指針(案)5章(圧送)」(土木学会、平成24年6月)の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。また、受注者はコンクリートブレイサー、ベルトコンベヤ、その他を用いる場合も、材料の分離を防ぐようこれらを配置しなければならない。 | 5. コンクリートポンプ使用時の注意 | 受注者はコンクリートポンプを用いる場合は、「コンクリートのポンプ施工指針[2012年版]5章(圧送)」(土木学会、平成24年6月)の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。また、受注者はコンクリートブレイサー、ベルトコンベヤ、その他を用いる場合も、材料の分離を防ぐようこれらを配置しなければならない。 | 誤字修正 |
| 1-3-6-3 | 加工 | 1-3-6-3 | 加工 | |
| 3. 鉄筋の曲げ半径 | 受注者は、鉄筋の曲げ形状の施工にあたり、設計図書に鉄筋の曲げ半径が示されていない場合は、「コンクリート標準示方書(設計編)本編第13章鉄筋コンクリートの前提、標準7編第2章鉄筋コンクリートの前提」(土木学会、平成30年3月)の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 3. 鉄筋の曲げ半径 | 受注者は、鉄筋の曲げ形状の施工にあたり、設計図書に鉄筋の曲げ半径が示されていない場合は、「コンクリート標準示方書(設計編)本編第13章鉄筋コンクリートの前提、標準7編第2章鉄筋コンクリートの前提」(土木学会、2023年3月)の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 誤字修正 |
| 1-3-6-5 | 継手 | 1-3-6-5 | 継手 | |
| 8. 機械式鉄筋継手 | 機械式鉄筋継手工法の品質管理は、使用する工法に応じた確認項目や頻度、方法、合否判定基準等を施工計画書に明示した上で、施工管理や検査時においては、これに従って確認を行わなければならない。また、機械式鉄筋継手工法の信頼度は、土木学会鉄筋定着・継手指針(令和2年3月土木学会)の信頼度Ⅱ種を基本とするが、設計時にⅠ種を適用している場合は、設計時の信頼度に従って施工管理を行わなければならない。 | ② 機械式鉄筋継手工法の品質管理は、使用する工法に応じた確認項目や頻度、方法、合否判定基準等を施工計画書に明示した上で、施工管理や検査時においては、これに従って確認を行わなければならない。また、機械式鉄筋継手工法の信頼度は、土木学会鉄筋定着・継手指針 [2020年制定] (令和2年3月土木学会)の信頼度Ⅱ種を基本とするが、設計時にⅠ種を適用している場合は、設計時の信頼度に従って施工管理を行わなければならない。 | 誤字修正 | |
| 第2編 | 材料編 | 第2編 | 材料編 | |
| 第2章 | 土木工事材料 | 第2章 | 土木工事材料 | |
| 第3節 | 骨材 | 第3節 | 骨材 | |
| 2-2-3-1 | 一般事項 | 2-2-3-1 | 一般事項 | |
| 2-2-3-2 | セメントコンクリート用骨材 | 2-2-3-2 | JIS A 5011-5(コンクリート用スラグ骨材-第5部：石炭ガス化スラグ骨材) | 追加 |
| 3. 使用規定の例外 | 気象作用をうけない構造物に用いる細骨材は、本案2項を適用しなくてもよいものとする。 | 3. 使用規定の例外 | 気象作用を受けない構造物に用いる細骨材は、本案2項を適用しなくてもよいものとする。 | 誤字修正 |
| 第6節 | セメント及び混和材量 | 第6節 | セメント及び混和材量 | |
| 2-2-6-1 | 一般事項 | 2-2-6-1 | 一般事項 | |
| 4. 異常なセメント使用時の注意 | 受注者は、貯蔵中に塊状になったセメントを用いてはならない。また、湿気をうけた疑いのあるセメント、その他異常を認めたセメントの使用にあたっては、これを用いる前に試験を行い、その品質を確かめなければならない。ただし、保管期間が長期にわたると品質が変動する可能性があるため、長期間貯蔵したセメントは使用してはならない。 | 4. 異常なセメント使用時の注意 | 受注者は、貯蔵中に塊状になったセメントを用いてはならない。また、湿気を受けた疑いのあるセメント、その他異常を認めたセメントの使用にあたっては、これを用いる前に試験を行い、その品質を確かめなければならない。ただし、保管期間が長期にわたると品質が変動する可能性があるため、長期間貯蔵したセメントは使用してはならない。 | 誤字修正 |
| 2-2-6-3 | 混和材料 | 2-2-6-3 | 混和材料 | |
| 5. 急結剤 | 急結剤は、「コンクリート標準示方書(規準編)JISCE-D 102-2018吹付けコンクリート(モルタル)用急結剤品質規格(案)」(土木学会、平成30年10月)の規格に適合するものとする。 | 5. 急結剤 | 急結剤は、「コンクリート標準示方書(規準編) [2018年制定] JISCE-D 102-2018吹付けコンクリート(モルタル)用急結剤品質規格(案)」(土木学会、2018年10月)の規格に適合するものとする。 | 誤字修正 |
| 2-2-8-3 | 再生用添加剤 | 2-2-8-3 | 再生用添加剤 | |
| | 再生用添加剤の品質は、労働安全衛生法施行令(令和2年12月改正 政令第34号)に規定されている特定化学物質を含まないものとし、表2-2-24、表2-2-25、表2-2-26の規格に適合するものとする。 | | 再生用添加剤の品質は、労働安全衛生法施行令(令和4年2月改正 政令第51号)に規定されている特定化学物質を含まないものとし、表2-2-24、表2-2-25、表2-2-26の規格に適合するものとする。 | 更新 |
| | 表2-2-26 再生用添加剤の検定項目 | | 表2-2-26 再生用添加剤の検定項目 | 修正 |

土木工事共通仕様書 新旧対照表

| (改定前) | | (改定後) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|--|--|---------|----------|----------------|----------------|------------------------|----------|--------------------|---|------|------------|-------------------|--------|----------------|----------|---------|------------|----------------|-----|------------|------------------|-----|------------|----------|---|----|-----|-----|----------|------|----------------|------------------------|----------|----------------|------------|------|------------|-------------------|----|------------|----------|----|------------|----------------|-----|------------|------------------|-----|------------|--|
| 編章節条 (項目見出し) | 現行条文 | 編章節条 (項目見出し) | 新条文 | 改定理由 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3編 | 土木工事共通編 | 第3編 | 土木工事共通編 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1章 | 一般施工 | 第1章 | 一般施工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。</p> <p>日本薬液注入協会 薬液注入工法の設計・施工指針 (平成元年6月)</p> <p>環境省 水質汚濁に係る環境基準について (平成31年3月)</p> <p>全国特定法面保護協会 のり土工の設計・施工指針 (平成25年10月)</p> <p>地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説 (平成24年5月)</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書 (規準編) (平成30年10月)</p> | <p>また、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。</p> <p>日本グライド協会 薬液注入工法の設計・施工指針 (平成元年6月)</p> <p>環境省 水質汚濁に係る環境基準 (環境省告示第62号) (令和3年10月)</p> <p>全国特定法面保護協会 のり土工の設計・施工指針 (平成25年10月)</p> <p>地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説 (平成24年5月)</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書 (規準編) (2018年10月)</p> <p>地盤工学会 地山補強土工法設計・施工マニュアル (平成23年8月)</p> | 改定までの読替え明示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3節 | 共通の工種 | 第3節 | 共通の工種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-3-2 | 材料 | 3-1-3-2 | 材料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 路側防護柵工の材料 | 交通量が非常に多い区間 | 4. 路側防護柵工の材料 | 交通量が非常に多い区間 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-3-10 | 道路付属物工 | 3-1-3-10 | 道路付属物工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 視線誘導標 | <p>受注者は、視線誘導標の施工にあたって、設置場所、建込角度が安全かつ、十分な誘導効果が得られるように設置しなければならない。</p> <p>ポストテンション桁製作工</p> | 1. 視線誘導標 | <p>受注者は、視線誘導標の施工にあたって、設置場所、建込角度が安全かつ十分な誘導効果が得られるように設置しなければならない。</p> <p>ポストテンション桁製作工</p> | 読字 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-3-13 | 3. PC緊張の施工 | 3-1-3-13 | 3. PC緊張の施工 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-3-14 | プレキャストセグメント主桁組立工 | 3-1-3-14 | プレキャストセグメント主桁組立工 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-4-4 | 既製杭工 | 3-1-4-4 | 既製杭工 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21. 鋼管杭・H鋼杭の現場継手 | <p>受注者は、斜杭の場合の鋼杭及びH鋼杭の溶接にあたり、自重により継手が引張りをうける側から開始しなければならない。</p> | 21. 鋼管杭・H鋼杭の現場継手 | <p>受注者は、斜杭の場合の鋼杭及びH鋼杭の溶接にあたり、自重により継手が引張りをうける側から開始しなければならない。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-4-5 | 場所打杭工 | 3-1-4-5 | 場所打杭工 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13. 杭頭の処理 | <p>受注者は、場所打杭工の杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないように行わなければならない。また、受注者は、場所打杭工の施工にあたり、連続してコンクリートを打込み、レイタンス部分を除去して品質不良のコンクリート部分を見込んで設計図書に示す打上り面より孔内水を使用しない場合で50cm以上、孔内水を使用する場合で80cm以上高く打込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊さなければならない。</p> <p>オーランゲーション工法による場所打杭の施工にあたっては、鉄筋先端高さまでコンクリートを打ち込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊すものとする。</p> | 13. 杭頭の処理 | <p>受注者は、場所打杭工の杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないように行わなければならない。また、受注者は、場所打杭工の施工にあたり、連続してコンクリートを打込み、レイタンス部分を除去して品質不良のコンクリート部分を見込んで設計図書に示す打上り面より孔内水を使用しない場合で50cm以上、孔内水を使用する場合で80cm以上高く打込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊さなければならない。</p> <p>オーランゲーション工法による場所打杭の施工にあたっては、鉄筋先端高さまでコンクリートを打ち込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊すものとする。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19. 泥水処理 | <p>受注者は、泥水処理を行うにあたり、水質汚濁に係る環境基準について (環境省告示)、都道府県公害防止条例等に従い、適切に処理を行わなければならない。</p> | 19. 泥水処理 | <p>受注者は、泥水処理を行うにあたり、水質汚濁に係る環境基準 (環境省告示)、都道府県公害防止条例等に従い、適切に処理を行わなければならない。</p> | 修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-4-7 | オープンケーソン基礎工 | 3-1-4-7 | オープンケーソン基礎工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 過掘り禁止 | <p>受注者は、オープンケーソンの沈下促進にあたり、刃先下部に過掘り掘り起こしをしてはならない。著しく沈下が困難な場合には、原因を調査するとともに、その処理方法について、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。</p> | 7. 過掘り禁止 | <p>受注者は、オープンケーソンの沈下促進にあたり、刃先下部に過掘り掘り起こしをしてはならない。著しく沈下が困難な場合には、原因を調査するとともに、その処理方法について、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-5-3 | コンクリートブロック工 | 3-1-5-3 | コンクリートブロック工 | 誤字 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. コンクリートブロック積 | <p>コンクリートブロック積とは、プレキャストコンクリートブロックによって練積されたもので、法勾配が1:1より急なものをいうものとする。</p> | 2. コンクリートブロック積 | <p>コンクリートブロック積とは、プレキャストコンクリートブロックによって練積されたもので、法勾配が1:1より急なものをいうものとする。</p> | 誤字 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. コンクリートブロック工の空張の積上げ | <p>受注者は、コンクリートブロック工の空張の積上げにあたり、胴がい及び尻がいを用いて固定し、胴込め材及び裏込め材を充填した後、天端付近に著しい空けが生じないように入念に施工し、締固めなければならない。</p> | 4. コンクリートブロック工の空張の積上げ | <p>受注者は、コンクリートブロック工の空張の積上げにあたり、胴がい及び尻がいを用いて固定し、胴込め材及び裏込め材を充填した後、天端付近に著しい空張が生じないように入念に施工し、締固めなければならない。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-6-7 | 加熱アスファルト舗装工 | 3-1-6-7 | 加熱アスファルト舗装工 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 加熱アスファルト安定処理の規定 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>表3-2-22 マーシャル安定度試験基準値</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空け率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 基準値 | 安定度 kN | 3.43以上 | フロー値 (1/100cm) | 10~40 | 空け率 (%) | 3~12 | 4. 加熱アスファルト安定処理の規定 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>表3-2-22 マーシャル安定度試験基準値</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空け率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 基準値 | 安定度 kN | 3.43以上 | フロー値 (1/100cm) | 10~40 | 空け率 (%) | 3~12 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安定度 kN | 3.43以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フロー値 (1/100cm) | 10~40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空け率 (%) | 3~12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安定度 kN | 3.43以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フロー値 (1/100cm) | 10~40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空け率 (%) | 3~12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (12) | <p>受注者は、設計図書に示す場合を除き、加熱アスファルト安定処理混合物を数割したときの混合物の温度は110℃以上、また、一層の仕上がり厚さは10cm以下としなければならない。ただし、混合物の種類によって数割しが困難な場合は、設計図書に関して監督職員と協議の上、混合物の温度を決定するものとする。</p> | (12) | <p>受注者は、設計図書に示す場合を除き、加熱アスファルト安定処理混合物を数割したときの混合物の温度は110℃以上、また、一層の仕上がり厚さは10cm以下としなければならない。ただし、混合物の種類によって数割しが困難な場合や、中温化技術により施工性を改善した混合物を使用する場合、締固め効果の高いローラーを使用する場合などは、設計図書に関して監督職員と協議の上、所定の締固めが得られる範囲で、混合物の適切な温度を決定するものとする。</p> | 文言追加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-6-11 | グースアスファルト舗装工 | 3-1-6-11 | グースアスファルト舗装工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>表3-1-27 接着剤の規格試験法</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格値</th> <th>試験法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>字揮発分 (%)</td> <td>50以上</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (20℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>揮発乾燥時間 (分)</td> <td>90以下</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>低温弾性率 (-10℃, 3mm)</td> <td>合格</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>基礎目録 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>前記試験後の基礎目録 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>塩水曝露試験後の基礎目録 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔注〕基礎目録の判定点は(一財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p> | 項目 | 規格値 | 試験法 | 字揮発分 (%) | 50以上 | JIS K 8833-1,2 | 粘度 (20℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K 8833-1,2 | 揮発乾燥時間 (分) | 90以下 | JIS K 5900 | 低温弾性率 (-10℃, 3mm) | 合格 | JIS K 5900 | 基礎目録 (点) | 10 | JIS K 5900 | 前記試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | 塩水曝露試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | 3-1-6-11 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>表3-1-27 接着剤の規格試験法</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格値</th> <th>試験法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>字揮発分 (%)</td> <td>50以上</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>粘度 (20℃) [Poise(Pa·s)]</td> <td>5(0.5)以下</td> <td>JIS K 8833-1,2</td> </tr> <tr> <td>揮発乾燥時間 (分)</td> <td>90以下</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>低温弾性率 (-10℃, 3mm)</td> <td>合格</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>基礎目録 (点)</td> <td>10</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>前記試験後の基礎目録 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> <tr> <td>塩水曝露試験後の基礎目録 (点)</td> <td>8以上</td> <td>JIS K 5900</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔注〕基礎目録の判定点は(一財)日本塗料検査協会「塗膜の評価基準」の標準判定写真による。</p> | 項目 | 規格値 | 試験法 | 字揮発分 (%) | 50以上 | JIS K 8833-1,2 | 粘度 (20℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K 8833-1,2 | 揮発乾燥時間 (分) | 90以下 | JIS K 5900 | 低温弾性率 (-10℃, 3mm) | 合格 | JIS K 5900 | 基礎目録 (点) | 10 | JIS K 5900 | 前記試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | 塩水曝露試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | |
| 項目 | 規格値 | 試験法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 字揮発分 (%) | 50以上 | JIS K 8833-1,2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘度 (20℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K 8833-1,2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 揮発乾燥時間 (分) | 90以下 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低温弾性率 (-10℃, 3mm) | 合格 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎目録 (点) | 10 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前記試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩水曝露試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 規格値 | 試験法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 字揮発分 (%) | 50以上 | JIS K 8833-1,2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粘度 (20℃) [Poise(Pa·s)] | 5(0.5)以下 | JIS K 8833-1,2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 揮発乾燥時間 (分) | 90以下 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 低温弾性率 (-10℃, 3mm) | 合格 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎目録 (点) | 10 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前記試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩水曝露試験後の基礎目録 (点) | 8以上 | JIS K 5900 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-6-12 | コンクリート舗装工 | 3-1-6-12 | コンクリート舗装工 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 加熱アスファルト安定処理の規定 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>表3-1-36 マーシャル安定度試験基準値</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空け率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 基準値 | 安定度 kN | 3.43以上 | フロー値 (1/100cm) | 10~40 | 空け率 (%) | 3~12 | 4. 加熱アスファルト安定処理の規定 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>表3-1-36 マーシャル安定度試験基準値</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定度 kN</td> <td>3.43以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>10~40</td> </tr> <tr> <td>空け率 (%)</td> <td>3~12</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 基準値 | 安定度 kN | 3.43以上 | フロー値 (1/100cm) | 10~40 | 空け率 (%) | 3~12 | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安定度 kN | 3.43以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フロー値 (1/100cm) | 10~40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空け率 (%) | 3~12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安定度 kN | 3.43以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フロー値 (1/100cm) | 10~40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空け率 (%) | 3~12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10節 | 仮設工 | 第10節 | 仮設工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-10-1 | 一般事項 | 3-1-10-1 | 一般事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 適用工種 | <p>本節は、仮設工として工事用道路工、仮橋・仮橋橋工、路面覆工、土留・仮締切工、砂防仮締切工、水替工、地下水位低下工、地中連続壁工 (壁式)、地中連続壁工 (柱列式)、仮水路工、残土受入れ施設工、作業ヤード整備工、電力設備工、コンクリート製造設備工、トンネル仮設備工、共同溝仮設備工、防塵対策工、汚濁防止工、防護施設工、除雪工、雪害施設工、法面吹付工その他これらに類する工種について定める。</p> | 1. 適用工種 | <p>本節は、仮設工として工事用道路工、仮橋・仮橋橋工、路面覆工、土留・仮締切工、砂防仮締切工、水替工、地下水位低下工、地中連続壁工 (壁式)、地中連続壁工 (柱列式)、仮水路工、残土受入れ施設工、作業ヤード整備工、電力設備工、コンクリート製造設備工、トンネル仮設備工、防塵対策工、汚濁防止工、防護施設工、除雪工、雪害施設工、法面吹付工、足場工、その他これらに類する工種について定める。</p> | 文言追加、削除 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-10-8 | 地下水位低下工 | 3-1-10-8 | 地下水位低下工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 周辺被害の防止 | <p>受注者は、周辺に井戸がある場合には、状況の確認に努め被害を与えないようにしなければならない。</p> | 2. 周辺被害の防止 | <p>受注者は、周辺に井戸がある場合には、状況の確認に努め被害を与えないようにしなければならない。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12節 | 工事製作工 (共通) | 第12節 | 工事製作工 (共通) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-12-2 | 材料 | 3-1-12-2 | 材料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 工事塗装工の材料 | <p>受注者は、塗料の有効期限を、ジnkリッチペイントは製造後6ヶ月以内、その他の塗料は製造後12ヶ月とし、有効期限を経過した塗料は使用してはならない。工期延期等やむを得ない理由によって使用期間が、ジnkリッチペイントは6ヶ月を超えた場合、その他の塗料は12ヶ月を超えた場合は、抜き取り試験を行って品質を確認し、正常の場合使用することができる。</p> | 7. 工事塗装工の材料 | <p>受注者は、塗料の有効期限を、ジnkリッチペイントは製造後6ヶ月以内、その他の塗料は製造後12ヶ月とし、有効期限を経過した塗料は使用してはならない。工期延期等やむを得ない理由によって使用期間が、ジnkリッチペイントは6ヶ月を超えた場合、その他の塗料は12ヶ月を超えた場合は、抜き取り試験を行って品質を確認し、正常の場合使用することができる。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1-12-3 | 桁製作工 | 3-1-12-3 | 桁製作工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (11)溶接の検査 | <p>外部さすの検査について、磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に応じたJIS Z 2305 (非破壊試験-技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。</p> | (11)溶接の検査 | <p>外部さすの検査について、磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に応じたJIS Z 2305 (非破壊試験-技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。</p> | 誤字修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

土木工事共通仕様書 新旧対照表

| (改定前) | | (改定後) | | 改定理由 |
|---|--|--|-----|--------------|
| 編章節条 (項目見出し) | 現行条文 | 編章節条 (項目見出し) | 新条文 | |
| 第12節 3-1-14-2 6. 耳芝 | <p>工事製作工 (共通)</p> <p>植生工</p>  | <p>第12節 3-1-14-2</p> <p>植生工</p>  | | 貼芝の表記を見やすく修正 |
| 3-1-15-3 9. 盛土材の敷均し及び締固め | <p>補強土壁工</p> <p>受注者は、盛土材の敷均し及び締固めについては、第1編1-2-4-3路体盛土工の規定により一層ごとに適切に施工しなければならない。まき出し及び締固めは、壁面工側から順次奥へ行なうとともに、重機等の急停止や急旋回等避け、補強材にずれや損傷を与えないように注意しなければならない。</p> | <p>3-1-15-3</p> <p>補強土壁工</p> <p>受注者は、盛土材の敷均し及び締固めについては、第1編1-2-4-3路体盛土工の規定により一層ごとに適切に施工しなければならない。まき出し及び締固めは、壁面工側から順次奥へ行なうとともに、重機等の急停止や急旋回等避け、補強材にずれや損傷を与えないように注意しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 3-1-17-3 1. 樹木・芝生管理工の施工 2. 剪定の施工 | <p>樹木・芝生管理工</p> <p>受注者は、樹木・芝生管理工の施工については、時期、箇所について監督職員より指示をうけるものとし、完了後は速やかに監督職員に連絡しなければならない。また、芝生類の施工については、第3編3-2-14-2植生工の規定による。</p> <p>受注者は、剪定の施工にあたり、「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」の策定について（厚生労働省令2年1月）によるものとし、各樹種の特性及び施工箇所合った剪定形式により行わなければならない。</p> | <p>3-1-17-3</p> <p>樹木・芝生管理工</p> <p>受注者は、樹木・芝生管理工の施工については、時期、箇所について監督職員より指示をうけるものとし、完了後は速やかに監督職員に連絡しなければならない。また、芝生類の施工については、第3編3-2-14-2植生工の規定による。</p> <p>受注者は、剪定の施工にあたり、「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」の改訂について（厚生労働省令2年1月）によるものとし、各樹種の特性及び施工箇所合った剪定形式により行わなければならない。</p> | | 誤字修正 修正 |
| 第7編 第1章 第2節 | <p>砂防堤</p> <p>砂防堰堤</p> <p>適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編）（平成25年10月）</p> | <p>第7編 第1章 第2節</p> <p>砂防堤</p> <p>適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編） [2013年制定]（2013年10月）</p> | | 誤字修正 |
| 第3章 第2節 | <p>斜面対策</p> <p>適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（施工編）（平成30年3月）</p> | <p>第3章 第2節</p> <p>斜面対策</p> <p>適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（施工編） [2017年制定]（2018年3月）</p> | | 誤字修正 |
| 第5節 7-3-5-1 | <p>擁壁工</p> <p>一般事項</p> <p>本節は、擁壁工として作業土工、既製杭工、場所打擁壁工、プレキャスト擁壁工、補強土壁工、井桁ブロック工、落石防護工、その他これらに類する工種について定める。</p> | <p>第5節 7-3-5-1</p> <p>擁壁工</p> <p>一般事項</p> <p>本節は、擁壁工として作業土工（床掘り・埋戻し）、既製杭工、場所打擁壁工、プレキャスト擁壁工、補強土壁工、井桁ブロック工、落石防護工、その他これらに類する工種について定める。</p> | | 誤字修正 |
| 第6節 7-3-6-1 | <p>山腹水路工</p> <p>一般事項</p> <p>1. 適用工種</p> <p>本節は、山腹水路工として作業土工、山腹集水路・排水路工、山腹明暗渠工、山腹暗渠工、集水樹工、現場排水路工その他これらに類する工種について定める。</p> | <p>第6節 7-3-6-1</p> <p>山腹水路工</p> <p>一般事項</p> <p>1. 適用工種</p> <p>本節は、山腹水路工として作業土工（床掘り・埋戻し）、山腹集水路・排水路工、山腹明暗渠工、山腹暗渠工、現場排水路工、その他これらに類する工種について定める。</p> | | 誤字修正 |
| 第9節 7-3-9-1 | <p>抑止杭工</p> <p>一般事項</p> <p>受注者は、杭建て込みのための削孔にあたっては、地形図、土質状況図等を検討して、地山のかく乱、地すべり等の誘発をさけるように施工しなければならない。</p> | <p>第9節 7-3-9-1</p> <p>抑止杭工</p> <p>一般事項</p> <p>受注者は、杭建て込みのための削孔にあたっては、地形図、土質状況図等を検討して、地山のかく乱、地すべり等の誘発をさけるように施工しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 第8編 第1章 第2節 | <p>ダム</p> <p>コンクリートダム</p> <p>適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編）（平成25年10月）</p> | <p>第8編 第1章 第2節</p> <p>ダム</p> <p>コンクリートダム</p> <p>適用すべき諸基準</p> <p>土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編） [2013年制定]（2013年10月）</p> | | 誤字修正 |
| 第3節 8-1-3-5 | <p>掘削工</p> <p>岩盤面処理</p> <p>なお、設計図書に示す予定掘削線は、岩質の状況により監督職員が変更する場合があるものとする。</p> | <p>第3節 8-1-3-5</p> <p>掘削工</p> <p>岩盤面処理</p> <p>なお、設計図書に示す予定掘削線は、岩質の状況により監督職員が変更を指示する場があるものとする。</p> | | 文言追加 |
| 第4節 8-1-4-7 | <p>コンクリートの運搬</p> <p>4. バケットの構造</p> <p>バケットの構造は、コンクリートの投入及び排出の際に材料の分離を起こさないものであり、また、バケットからのコンクリートの排出が容易でかつ、速やかなものとする。</p> | <p>第4節 8-1-4-7</p> <p>コンクリートの運搬</p> <p>4. バケットの構造</p> <p>バケットの構造は、コンクリートの投入及び排出の際に材料の分離を起こさないものであり、また、バケットからのコンクリートの排出が容易でかつ速やかなものとする。</p> | | 句点 |
| 8-1-4-9 8. 異コンクリートの打継ぎ 第2章 第3節 | <p>コンクリートの打込み</p> <p>受注者は、異なったコンクリートを打継ぐ場合には、その移り目で、配合の急変をさけるようコンクリートを打込まなければならない。</p> <p>フィルダム</p> <p>掘削工</p> | <p>8-1-4-9</p> <p>コンクリートの打込み</p> <p>受注者は、異なったコンクリートを打継ぐ場合には、その移り目で、配合の急変をさけるようコンクリートを打込まなければならない。</p> <p>フィルダム</p> <p>掘削工</p> | | 誤字修正 |
| 8-2-3-3 2. 過堀の処理 | <p>過堀の処理</p> <p>受注者は、過堀をした場合は、その処理について監督職員と協議しなければならない。</p> | <p>8-2-3-3</p> <p>過堀の処理</p> <p>受注者は、過掘りをした場合は、その処理について監督職員と協議しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 第4節 8-2-4-1 | <p>盛土工</p> <p>一般事項</p> <p>6. オーバーサイズの除去</p> <p>受注者は、まき出し時のコア材及びフィルター材のオーバーサイズ等は、除去しなければならない。</p> | <p>第4節 8-2-4-1</p> <p>盛土工</p> <p>一般事項</p> <p>6. オーバーサイズの除去</p> <p>受注者は、まき出し時のコア材及びフィルター材のオーバーサイズ等は、除去しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 8-2-4-5 2. まき出し | <p>コアの盛立</p> <p>受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。</p> | <p>8-2-4-5</p> <p>コアの盛立</p> <p>受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 3. まき出し厚と転圧 | <p>受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。</p> | <p>3. まき出し厚と転圧</p> <p>受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 4. まき出し材料の含水比 | <p>受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す含水比を確保できない場合には、設計図書に関して、監督職員の指示に従い処置しなければならない。</p> | <p>4. まき出し材料の含水比</p> <p>受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す含水比を確保できない場合には、設計図書に関して、監督職員の指示に従い処置しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 5. 層間の密着性の確保 | <p>受注者は、既に締固めた層の表面が過度に乾燥、湿潤または平滑となっており上層との密着が確保できない場合には、監督職員の指示に従い、散水あるいはスカリアー等の方法で処置し、この部分の締固め完了後にまき出しを行わなければならない。</p> | <p>5. 層間の密着性の確保</p> <p>受注者は、既に締固めた層の表面が過度に乾燥、湿潤または平滑となっており上層との密着が確保できない場合には、監督職員の指示に従い、散水あるいはスカリアー等の方法で処置し、この部分の締固め完了後にまき出しを行わなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 8-2-4-6 2. まき出し | <p>フィルターの盛立</p> <p>受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。</p> | <p>8-2-4-6</p> <p>フィルターの盛立</p> <p>受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 3. まき出し厚と転圧 | <p>受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。</p> | <p>3. まき出し厚と転圧</p> <p>受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 4. まき出し材料の粒度 | <p>受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す粒度と合致していない場合には、監督職員の指示に従い処置しなければならない。</p> | <p>4. まき出し材料の粒度</p> <p>受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す粒度と合致していない場合には、監督職員の指示に従い処置しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 8-2-4-7 2. まき出し | <p>ロックの盛立</p> <p>受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。</p> | <p>8-2-4-7</p> <p>ロックの盛立</p> <p>受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 3. まき出し厚と転圧 | <p>受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。</p> | <p>3. まき出し厚と転圧</p> <p>受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。</p> | | 誤字修正 |
| 4. 大塊・小塊のまき出し | <p>受注者は、小塊を基礎地盤または基礎岩盤及びフィルター側にまき出さなければならない。また、大塊は、堤体外周側になるようにまき出さなければならない。</p> | <p>4. 大塊・小塊のまき出し</p> <p>受注者は、小塊を基礎地盤または基礎岩盤及びフィルター側にまき出さなければならない。また、大塊は、堤体外周側になるようにまき出さなければならない。</p> | | 誤字修正 |

土木工事共通仕様書 新旧対照表

| (改定前) | | (改定後) | | 改定理由 |
|-------------------|--|-------------------|--|---------------------------|
| 編章節条 (項目見出し) | 現行条文 | 編章節条 (項目見出し) | 新条文 | |
| 第9編 | 道路編 | 第9編 | 道路編 | |
| 第1章 | 道路改良 | 第1章 | 道路改良 | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。 日本道路協会 落石対策便覧 (平成12年6月) 日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック (除雪編) (平成16年12月) | | また、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。 日本道路協会 落石対策便覧 (平成29年12月) 日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック (除雪編) (平成16年12月) | 改定までの読替E明示 発行日修正 修正 |
| 第5節 | 排水構造物工 (路面排水工) | 第5節 | 排水構造物工 (路面排水工) | |
| 9-2-5-1 | 一般事項 | 9-2-5-1 | 一般事項 | |
| 2.適用規定 | 排水構造物工 (路面排水工) の施工については、道路土工要綱の排水施設の施工の規定及び本編9-2-5-3側溝工、9-2-5-5集水溝 (街渠溝) ・マンホール工の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 2.適用規定 | 排水構造物工 (路面排水工) の施工については、道路土工要綱の排水施設の施工の規定及び本編 9編9-2-5-3側溝工、9編9-2-5-5集水溝 (街渠溝) ・マンホール工の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 表記の統一 |
| 第9節 | 標識工 | 第9節 | 標識工 | |
| 9-2-9-1 | 一般事項 | 9-2-9-1 | 一般事項 | |
| 3.適用規定 | 受注者は、標識工の施工にあたって、「道路標識設置基準・同解説 第4章 道路標識の設計・施工」(日本道路協会、令和2年6月)の規定、「道路土工要綱 第5章 施工計画」(日本道路協会、平成21年6月)の規定、第3編3-2-3-6小型標識工、第3編3-2-3-3作業土工 (床掘り・埋戻し)、3-2-10-5土留・仮締切工の規定、及び「道路標識ハンドブック」(全国道路標識・標示業協会、令和元年8月)による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 3.適用規定 | 受注者は、標識工の施工にあたって、「道路標識設置基準・同解説 第4章 道路標識の設計・施工」(日本道路協会、令和2年6月)の規定、「道路土工要綱 第5章 施工計画」(日本道路協会、平成21年6月)の規定、第3編3-2-3-6小型標識工、第3編3-2-3-3作業土工 (床掘り・埋戻し)、3-2-10-5土留・仮締切工の規定、及び「道路標識ハンドブック」(全国道路標識・標示業協会、令和4年1月)による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 表記の統一、 発行年月 |
| 第10節 | 区画線工 | 第10節 | 区画線工 | |
| 9-2-10-1 | 一般事項 | 9-2-10-1 | 一般事項 | |
| 3.適用規定 | 受注者は、区画線工の施工にあたって、「道路標識・区画線及び道路表示に関する命令」及び第3編3-2-3-9区画線工の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 3.適用規定 | 受注者は、区画線工の施工にあたって、「道路標識・区画線及び道路表示に関する命令」及び第3編3-2-3-9区画線工の規定による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。 | 修正 |
| 9-2-10-2 | 区画線工 | 9-2-10-2 | 区画線工 | |
| 2.区画線の指示方法 | 区画線の指示方法について設計図書に示されていない事項は「道路標識・区画線及び道路表示に関する命令」により施工する。 | 2.区画線の指示方法 | 区画線の指示方法について設計図書に示されていない事項は「道路標識・区画線及び道路表示に関する命令」により施工する。 | 修正 |
| 第3章 | 橋梁下部 | 第3章 | 橋梁下部 | |
| 第1節 | 適用 | 第1節 | 適用 | |
| 5.強度測定 (2) | 微破壊・非破壊試験は「微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定要領」(以下、「要領」という。))に従い行わなければならない。 | 5.強度測定 (2) | 微破壊・非破壊試験は「微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定要領」(以下、「要領」という。)) (国土交通省、平成30年10月)に従い行わなければならない。 | 修正 |
| 第4章 | 鋼橋上部 | 第4章 | 鋼橋上部 | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 日本道路協会 鋼道路橋の疲労設計便覧 (令和2年9月) | | 日本道路協会 鋼道路橋疲労設計便覧 (令和2年9月) | 誤字修正 |
| 第6章 | トンネル (MATM) | 第6章 | トンネル (MATM) | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 土木学会 トンネル標準示方書山岳工法編・同解説 (平成28年8月) 土木学会 トンネル標準示方書開削工法編・同解説 (平成28年8月) 土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説 (平成28年8月) | | 土木学会 トンネル標準示方書山岳工法編・同解説 [2016年制定] (平成28年8月) 土木学会 トンネル標準示方書開削工法編・同解説 [2016年制定] (平成28年8月) 土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説 [2016年制定] (平成28年8月) | 誤字修正 誤字修正 誤字修正 |
| 第3節 | トンネル掘削工 | 第3節 | トンネル掘削工 | |
| 9-6-3-2 | 掘削工 | 9-6-3-2 | 掘削工 | |
| 1.一般事項 | 受注者は、トンネル掘削により地山をゆるめないように施工するとともに、過度の爆破を避け、余掘を少なくするよう施工しなければならない。 | 1.一般事項 | 受注者は、トンネル掘削により地山をゆるめないように施工するとともに、過度の爆破を避け、余掘を少なくするよう施工しなければならない。 | 誤字修正 |
| 第3節 | トンネル掘削工 | 第3節 | トンネル掘削工 | |
| 9-6-5-3 | 覆工コンクリート工 | 9-6-5-3 | 覆工コンクリート工 | |
| | | 11. 横断目地 | トンネル覆工コンクリートの目地の形状は「三角形形状」を標準とする。 なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議しなければならない。 | 新規追加 新規追加 |
| 11. 打設時期 | 受注者は、覆工コンクリートの打設時期を計測 (A) の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。 | 12. 打設時期 | 受注者は、覆工コンクリートの打設時期を計測 (A) の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。 | |
| 第7章 | コンクリートシェッド | 第7章 | コンクリートシェッド | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 土木学会 コンクリート標準示方書 (設計編) (平成30年3月) 土木学会 コンクリート標準示方書 (施工編) (平成30年3月) 日本道路協会 落石対策便覧 (平成12年6月) | | 土木学会 コンクリート標準示方書 (設計編) [2022年制定] (2023年3月) 土木学会 コンクリート標準示方書 (施工編) [2017年制定] (2018年3月) 日本道路協会 落石対策便覧 (平成29年12月) | 誤字修正 誤字修正 誤字修正 |
| 第8章 | 鋼製シェッド | 第8章 | 鋼製シェッド | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 日本道路協会 落石対策便覧 (平成12年6月) | | 日本道路協会 落石対策便覧 (平成29年12月) | 誤字修正 |
| 第11章 | 共同溝 | 第11章 | 共同溝 | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説 (平成28年8月) | | 土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説 [2016年制定] (平成28年8月) | 誤字修正 |
| 第14章 | 道路維持 | 第14章 | 道路維持 | |
| 第13節 | 橋梁床版工 | 第13節 | 橋梁床版工 | |
| 9-14-13-7 | 旧橋撤去工 | 9-14-13-7 | 旧橋撤去工 | |
| 5.落下物防止対策 | 受注者は、河川及び供用道路上等、旧橋撤去工を行う場合は、撤去に伴い発生するアスファルト粒、コンクリート破片及び撤去に使用する資材の落下を防止する対策を講じ、河道及び交通の確保に努めなければならない。 | 5.落下物防止対策 | 受注者は、河川及び供用道路上等、旧橋撤去工を行う場合は、撤去に伴い発生するアスファルト粒、コンクリート破片及び撤去に使用する資材の落下を防止する対策を講じ、河道及び交通の確保に努めなければならない。 | 誤字修正 |
| 第19節 | 道路清掃工 | 第19節 | 道路清掃工 | |
| 9-14-19-4 | 路肩養生工 | 9-14-19-4 | 路肩養生工 | |
| | 受注者は、路肩養生の施工については、路面排水を良好にするため路肩の堆積土砂を削り取り、または土砂を補給して養生し、締固めを行い、設計図書に示す形状に仕上げなければならない。 | | 受注者は、路肩養生の施工については、路面排水を良好にするため路肩の堆積土砂を削り取り、または土砂を補給して養生し、締固めを行い、設計図書に示す形状に仕上げなければならない。 | 誤字修正 |
| 第15章 | 道路修繕 | 第15章 | 道路修繕 | |
| 第24節 | 橋脚巻立て工 | 第24節 | 橋脚巻立て工 | |
| 9-15-24-4 | 旧橋撤去工 | 9-15-24-4 | 旧橋撤去工 | |
| 29. 超音波探傷試験の検査技術者 | 超音波探傷試験の検査技術者は、(一社)日本非破壊検査協会「NDIS 0601非破壊検査技術者認定規定」により認定された2種以上の有資格者とする。 | 29. 超音波探傷試験の検査技術者 | 超音波探傷試験の検査技術者は、JIS Z 2305 (非破壊試験技術者の資格及び認証) に基づく2種以上の有資格者とする。 | 修正 |
| 第11編 | 公園緑地編 | 第11編 | 公園緑地編 | |
| 第4章 | 施設整備 | 第4章 | 施設整備 | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 土木学会 コンクリート標準示方書 (設計編) (平成25年3月) 土木学会 コンクリート標準示方書 (施工編) (平成25年3月) 土木学会 コンクリートのポンプ施工指針 (平成24年6月) | | 土木学会 コンクリート標準示方書 (施工編) [2017年制定] (2018年3月) 土木学会 コンクリート標準示方書 (設計編) [2022年制定] (2023年3月) 土木学会 コンクリートのポンプ施工指針 [2012年版] (平成24年6月) | 誤字修正 誤字修正 誤字修正 |
| 第5章 | グラウンド・コート整備 | 第5章 | グラウンド・コート整備 | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| | 土木学会 コンクリート標準示方書 (設計編) (平成25年3月) 土木学会 コンクリート標準示方書 (施工編) (平成25年3月) 土木学会 コンクリートのポンプ施工指針 (平成24年6月) | | 土木学会 コンクリート標準示方書 (施工編) [2017年制定] (2018年3月) 土木学会 コンクリート標準示方書 (設計編) [2022年制定] (2023年3月) 土木学会 コンクリートのポンプ施工指針 [2012年版] (平成24年6月) | 誤字修正 誤字修正 誤字修正 |

土木工事共通仕様書 新旧対照表

| (改定前) | | (改定後) | | |
|-----------------|---|-----------------|--|-------------|
| 編章節条 (項目見出し) | 現行条文 | 編章節条 (項目見出し) | 新条文 | 改定理由 |
| 第12編 | 港湾編 | 第12編 | 港湾編 | |
| 目次 | 5-3-11 蓋コンクリート工 12-53 5-3-20 アスファルト舗装工 12-62 5-4-2 排砂管設備工 12-66 | 目次 | 5-3-11 蓋コンクリート工 12-54 5-3-20 アスファルト舗装工 12-63 5-4-2 排砂管設備工 12-67 | ページ番号の誤りを修正 |
| 第2章 | 材料 | 第2章 | 材料 | |
| 第2節 | 土 | 第2節 | 土 | |
| 2-2-1 | 一般事項 | 2-2-1 | 一般事項 | |
| | 3. 土の代替としてスラグ類(鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、熔融スラグ等)を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成27年12月)」を参考に・・・。 | | 3. 土の代替としてスラグ類(鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、熔融スラグ等)を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成30年4月)」を参考に・・・。 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第3節 | 石材等 | 第3節 | 石材等 | |
| 2-3-2 | 砂 | 2-3-2 | 砂 | |
| | 4. 砂の代替としてスラグ類(鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、熔融スラグ等)を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成27年12月)」を参考に・・・。 | | 4. 砂の代替としてスラグ類(鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、熔融スラグ等)を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成30年4月)」を参考に・・・。 | 諸基準類の改定に伴う |
| 2-3-3 | 砂利、碎石 | 2-3-3 | 砂利、碎石 | |
| | 3. 砂利・碎石の代替としてスラグ類(鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、熔融スラグ等)を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成27年12月)」を参考に・・・。 | | 3. 砂利・碎石の代替としてスラグ類(鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、熔融スラグ等)を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成30年4月)」を参考に・・・。 | 諸基準類の改定に伴う |
| 2-3-4 | 石 | 2-3-4 | 石 | |
| | 5. 設計図書に定めにより、鉄鋼スラグ水和固化体製人工石材を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成27年12月)」を参考に・・・。 | | 5. 設計図書に定めにより、鉄鋼スラグ水和固化体製人工石材を使用する場合は、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン(改訂)(平成30年4月)」を参考に・・・。 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第4節 | 骨材 | 第4節 | 骨材 | |
| 2-4-1 | 一般事項 | 2-4-1 | 一般事項 | |
| | 記載なし | | JIS A 5011-5「コンクリート用スラグ骨材(石炭ガス化スラグ骨材)」 | 規格の追加 |
| 第4章 | 無筋・鉄筋コンクリート | 第4章 | 無筋・鉄筋コンクリート | |
| 第3節 | レディーミクストコンクリート | 第3節 | レディーミクストコンクリート | |
| 4-3-2 | 工場の選定 | 4-3-2 | 工場の選定 | |
| | 1. 受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、JISマーク表示認証工場(改正工業標準化法(平成16年6月9日公布)に基づき・・・)。 | | 1. 受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、JISマーク表示認証工場(産業標準化法(令和4年6月改正法律68号))に基づき・・・)。 | 諸法令の改定に伴う |
| 第5章 | 一般施工 | 第5章 | 一般施工 | |
| 第17節 | 付属工 | 第17節 | 付属工 | |
| 5-17-4 | 車止・緑金物 | 5-17-4 | 車止・緑金物 | |
| | 1. 車止・緑金物 (2) 施工 (イ)鋼製(熔融亜鉛メッキ) ハ) 車止めは、設計図書に定めのない場合、「JIS Z 9101 安全色及び安全標識—産業環境及び案内用安全標識のデザイン通則」に規定する黄と黒のしま模様でなければならない。(但し、緑金物は除く。)なお、しまの幅は20cm、傾斜は右上がり60度でなければならない。 | | 1. 車止・緑金物 (2) 施工 (イ)鋼製(熔融亜鉛メッキ) ハ) 車止めは、設計図書に定めのない場合、「JIS Z 9101 安全色及び安全標識—産業環境及び案内用安全標識のデザイン通則」に規定する黄と黒のしま模様でなければならない。(ただし、緑金物は除く。)なお、しまの幅は20cm、傾斜は右上がり60度でなければならない。 | 表記の統一 |
| 第23節 | 維持補修工 | 第23節 | 維持補修工 | |
| 5-23-2 | 維持塗装工 | 5-23-2 | 維持塗装工 | |
| | 2. 車止塗装、緑金物塗装 (1) 鋼製 ② 車止めは、設計図書に定めのない場合、「JIS Z 9101 安全色及び安全標識—産業環境及び案内用安全標識のデザイン通則」に規定する黄と黒のしま模様でなければならない。(但し、緑金物は除く。)なお、しまの幅は20cm、傾斜は右上がり60度でなければならない。 | | ② 車止めは、設計図書に定めのない場合、「JIS Z 9101 安全色及び安全標識—産業環境及び案内用安全標識のデザイン通則」に規定する黄と黒のしま模様でなければならない。(ただし、緑金物は除く。)なお、しまの幅は20cm、傾斜は右上がり60度でなければならない。 | 表記の統一 |
| 第6章 | (港湾) 航路、泊地、船だまり | 第6章 | (港湾) 航路、泊地、船だまり | |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第7章 | (港湾) 防波堤、防砂堤、導流堤 | 第7章 | (港湾) 防波堤、防砂堤、導流堤 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第8章 | (港湾) 防波堤 | 第7章 | (港湾) 防波堤 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第9章 | (港湾) 護岸、岸壁、物揚場 | 第7章 | (港湾) 護岸、岸壁、物揚場 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第10章 | (港湾) 棧橋、係船杭 | 第7章 | (港湾) 護岸、岸壁、物揚場 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第11章 | (港湾) 臨港道路 | 第10章 | (港湾) 棧橋、係船杭 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第12章 | (海岸) 堤防、防潮堤、護岸 | 第11章 | (港湾) 臨港道路 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第13章 | (海岸) 突堤 | 第12章 | (海岸) 堤防、防潮堤、護岸 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第14章 | (海岸) 離岸堤 | 第13章 | (海岸) 突堤 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第15章 | (海岸) 樋門・水(開)門 | 第14章 | (海岸) 離岸堤 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |
| 第16章 | (海岸) 養浜 | 第15章 | (海岸) 樋門・水(開)門 | 諸基準類の改定に伴う |
| 第2節 | 適用すべき諸基準 | 第2節 | 適用すべき諸基準 | |